

出すことになつたものと見えるのであります。α粒子の放出と同時に、反動を残りの原子に及ぼすのでありまして、爲めにα↘β形にβの足跡を生ずるのであります。若しニウロンが衝突する爲で無く、自然にかゝる崩壊が起るならば、α↔βとαとβは一直線をなして破裂するのでありませうが、ニウロンの運動量のために角度が生ずるものと思はれるのであります。従て適當に計算を致しますと、ニウロンの運動量、反動原子の質量等が推測され、この際起る超化學作用に就て其経緯を窺ふことが出来るのであります。専門技術の討議の結果、これは窒素の中にニウロンが入込んで其一員となり、實際α粒子を放出し、後に新原子B¹¹を残して安定すると云ふ事件であると解釋されたのであります。即ち $N^{14} + n^1 \rightleftharpoons \alpha^4 + B^{11}$ なる超化學作用を生じたものと見るのが最も妥當であると思はれるのであります。一體α粒子の衝撃によつてニウロンがB¹¹より放出される「化學」は、其エネルギー關係から見て $B^{11} + He^4 \rightleftharpoons N^{14} + n^1$ であると思はれますから、結局此際、 $B^{11} + He^4 \rightleftharpoons N^{14} + n^1$ なる「可逆反應」が起るものと見られるのであります。(續く)

花 山 だ よ り

二月一日から公文氏が宿舎に泊られる様になつたので、宿舎は大變賑やかになる。尚ほ同氏は今後天文臺で、毎日無線報時受信、時計比較、時刻天測等を受け持たれる事になつた。

14日の日食は南洋では快晴で大成功の由、詳細は柴田先生の遠征日誌を見る事として、京都では甚だ不良な天氣であつた。山本臺長は風邪氣にて熱のあるのを押して山に來られた。尚ほ此の日は朝日新聞社の觀測日として百名許りの人々が天文臺につめかけ大變な騒ぎであつた。

昨年末頃から市内に流行してゐた感冒は今月中頃から山を襲ひ、臺員一同輕重の差こそあれ恨みなしに流行を追つた次第である。殊に山本先生は日食の日に無理をされた爲めか餘病を併發されたが、月末には山に來られる様に來られた。(1934. 2. 28) 星見山人

最近の花山ブレテン

ブレテンは1921年12月12日天文同好會から創刊され、1929年7月3日(第154號)よりは京都帝國大學天文學教室發行となり、更に同年11月7日(第160號)以來は花山天文臺發行となつたもので、目的は、天文學上の研究に必要な諸報告、ニュース及び論文抜粹等載せ、高級な國際的學術雜誌の體裁を備へてゐる。創刊以來、用語は専ら英語であつたが、今1933年末から編輯方針更新を期として、日本語をも加へ、廣範圍の研究者のため利便を圖ることとなつた。配布希望者は、郵券貼布の封筒(宛名を記入)と、實費(毎月15錢の割)とを東亞天文協會事務所に送られれば(觀測部員の資格を認めて)配布を受けることが出来る。